

はじめに

鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センターは、平成13年度の発足から今年度で18年目を迎えました。この間、父なる神様の御守りの中、多くの方々の祈りやご指導に支えられ活動を続けることができましたこと、心より感謝申し上げます。

さて平成28年度には6月14日のアセンブリーの時間に「キャンパスコンサート～鹿児島島の歌姫を迎えて～」と題して全学向けのキャンパスコンサートを実施しました。音楽を通して建学の精神をより深く体験できるよう、鹿児島在住の2名の著名なアーティストをお招きし、さまざまな種類のアヴェ・マリアや日本の叙情曲、オペラのアリアなどを歌っていただきました。9月5日には教職員全体研修会（FD・SD）にシスター山口キヌエ先生をお招きして「シスター江角ヤスの歩んだ道」と題してご講演をしていただきました。本学は学園の創立者江角ヤス先生が亡くなられた後に創立された大学で、江角先生の名前や学園標語・教育理念などは形の上では度々触れていても、抽象概念として頭の中での理解にとどまり、心に訴えるアピールが欠けているというのが実情でした。今回、研究者の話というよりは、実際に江角先生と生活や仕事を共にされた方の生の話を聞き、それを通して自分たちの中に江角先生の間像が形成されて行けば、その影響は自然な形で建学の精神の理解と実践につながるものとなることを信じて、企画されました。2月24日には本学名誉教授の竹山昭神父に「わたしの母とはだれか」と題してセミナーを実施しました。大掛かりな公開セミナーとは違い、主に所員対象の少人数のセミナーを企画し、1時間半の竹山先生の講話の後、1時間ほどお茶を飲みながら講師を囲んで懇談しました。

平成29年度にはまず7月11日のアセンブリーの時間に「キャンパスコンサート～ウィーンから音楽の贈り物～」と題して全学向けのキャンパスコンサートを実施した。今回は音楽の都ウィーンで活躍する日本人トリオ、ウィーン・V. ルジェリウス・ピアノ三重奏団をお招きし、A. ドヴォルザークやJ. シュトラウスなどの楽しい楽曲を演奏していただきました。2月23日には大学のFD・SD（教職員研修）を兼ねて教職員対象の公開セミナーを開催しました。講師には、長年、大学教育とキリスト教の人間教育に携わってこられ、またNPO法人「生と死を考える会」の理事長を歴任され、現在ケアの哲学学会代表もされておられる白百合女子大学の田畑邦治学長をお招きしました。「自分の容量を超えて相手を——ケアの精神とキリスト教の人間観」というテーマのもと、基調講演をしていただき、その後質疑応答、懇談なども行われました。セミナーを通して、教職員一人ひとりがキリスト教や大学教育を見つめなおす貴重な機会となりました。

私どもセンター所員はカトリック大学に勤務する教職員として、機会あるごとにキリスト教について理解を深め、創立者シスター江角ヤス先生の精神や願いを学び、分かち合う機会が必要であると信じております。今後ともご指導いただけますれば、幸いに存じます。

平成30年10月

キリスト教文化研究センター

所員 岡村和信